

た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX; 0595 (21) 8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>

E-mail:iga-ken@iga.ed.jp

3学期も後半に入りました♪

立春を過ぎ、厳しかった寒さも少しずつ和らいできたように感じられる頃になりました。

52日間という大変短い3学期ですが、いよいよ後半に入りました。卒業まで、中学校3年生は16日、小学校6年生は19日の授業日となり、各学校では学習のまとめを行うとともに、卒業への取組・活動にも力を入れていることだと思います。3年間に及ぶコロナ禍の中、活動が制限されることも少なくなかったわけですが、残りの時間を大切に過ごし、笑顔で巣立っていかれることを心より願っています。



今年度の研修講座が終了しました♪

研修講座「人権・同和教育連続講座③」を開催♪

人権・部落問題学習の約束事

講師 栗原 成壽 さん(伊賀市教育委員会人権教育アドバイザー)

2月10日(金)、今年度の最終講座となる「人権・同和教育連続講座③」を実施しました。

本連続講座は、平成28年度にスタートし、今年度で7年目を迎えました。若い教職員が増え、人権・同和教育の継承が大きな課題となったことから、栗原 成壽さんを講師にお招きし、経験の少ない教員を対象に研修を進めてきました。毎年、20名程度の参加とし、連続講座とすることで学びを深めてきました。

今年度も22名の方が参加し、3回の連続講座に加え、小・中各1の授業公開・事後協議を行いながら、具体的実践を通して学び合ってきました。



「確かさを引き継いで」

- ① 5/20 人権・同和教育を進めていく上で大事にしたいいくつかの視点
- ② 8/ 2 なかまづくりは「隠れたカリキュラム」
- ③ 2/10 人権・部落問題学習の約束事

※1/20(崇広中学校)、1/31(阿山小学校)に授業公開を実施

2月10日(金)に開催した第3回研修講座では、「人権・部落問題学習の約束事」について学びました。1月に2つの授業公開を実施しましたが、それぞれの授業・指導案に関わって、児童・生徒の現状と課題との関係、指導案の具体的な記述(目標について、題材について、児童・生徒について)など、具体的な視点から多くのご示唆をいただきました。概要については、「研修ニュース」や「研修トピックス」をご覧ください。

本紙面では、3回の講座、2回の授業公開&事後協議・・・それらを通してどう学び、意識や取組がどう変わってきたか、今年度の連続講座に参加された皆さんの学びについてアンケートからいくつか紹介します。(下線はこちらで引きました)

- ・ 一年間ありがとうございました。本講座では、人権学習を進めるにあたって大前提として必要なことをたくさん学ばせてもらいました。「教育的に不利な立場にある生徒」や「視点生」、「生徒の背景」など、言葉で言うのは簡単でも、それがどの程度きちんと把握できているかは、自分の中でも疑問に思うところがありました。もっと知るために回数、時間、丁寧なかかわりを継続していきます。ありがとうございました。(中:「2~3年次研修として」参加)
- ・ どうしても題材が先行して、そこに児童が付随する形になってしまっていました。児童の実態を詳しく知らなければできないことだなと感じたと同時に、それができるのは担任をしている自分なのだと自覚しました。もしかしたら、保護者の方よりも長い時間を共に過ごしているかもしれないと思うと、もっと知っているはず、知らないといけないのかなと感じました。家庭訪問をし、聞きたいことが聞けなかったとしても、何度も行きたいと思いました。(小:「自己研修として」参加)
- ・ 人権学習をする上での指導案の書き方や、注意すべきポイントがよくわかりました。昨年度、伊賀に来て何もわからず続けてきた人権に関わることが、少しだけ見えてきた気がします。日記を書くことやそれを交流すること、保護者とも関係をつくっていくことなど、やってはいませんが、まだまだ課題が多くあります。来年度から、明日から、今日から、少しずつでも実践していけるようにしたいと思います。1年間ありがとうございました。(小:「その他」で参加)
- ・ 他市から来て2年目で、人権について全然わからないまま受講した研修でした。1年間受講させていただいて、レポートの作成は辛いこともありましたが、視点児のおき方やレポートの書き方(読み手を意識すること)などにおいて、とても勉強になりました。ありがとうございました。(小:「2~3年次研修として」参加)
- ・ 質問もさせていただき、皆さんの取組や考えを聞かせていただくこともできて、とても勉強になりました。改めて目の前の子どものくらし、実態にどンドン目を向けていきたい、関わっていきたく感じました。今回の学びを私だけで終わらせるのではなく、これからの教育に、学校での同僚につなげていきたいと思っています。(小:「2~3年次研修」として参加)

- 1年間、この3回連続講座に参加させていただき、本当に学ぶことが多く、自分自身大きく成長することができたと思います。学校で見る生徒の姿のウラには必ずくらしがあり、そのくらしを自分の目を見て理解したうえでその生徒と向き合うことが大切だということを学びました。これからの長い教員生活の中でも今回学んだことをいかし、家庭訪問を繰り返していく中で、将来力強く生きる子どもたちを育てていきたいと思いました。1年間ありがとうございました。(中:「2~3年次研修として」)
- 知識的側面から出会わせたい教材と、生徒の実態から考える題材、どちらも大切であるけれど、まずは生徒の実態把握を大切にしたいと思いました。また、大規模の学校の中で、各クラスの様子が違ったり、様々な生徒がいたりする中で、誰に焦点を当てたり、何を課題としたりして題材を決めていくことに難しさも同時に感じました。学年初めにカリキュラムを見直す際、各クラスの担任が気になる子、その子にどんな力をつけたいのかを出し合い、そのつけたい力のためにどんな題材が適切なのか話し合う場を持つことができると思います。日常的な「なかまづくり」について、自分のことをあまり話さなくなる時期の中学生同士をつなげるために、また、お互いをわかり合うために、普段どんなことが具体的にできるでしょうか。一人ひとりが綴ったものを共有するなど行っていますが、なかなか時間が取れない中で何ができるか悩んでいます。(中:「校内での推進担当者として」参加)
- 指導案の書き方についてすごく参考になりました。特に「つながり」を意識する必要があると感じました。普段書いている指導案を見直してみたいと思いました。また、目標の書き方についても二通り(全体と視点児)あることなどは初めて知りました。小見出しの書き方についても、自分自身悩んでいるところがあったのでレポートなどでいかしていきたいと思います。(小:「自己研修として」参加)
- 小見出しを考える時に、どんな小見出しをつけたらよいかわからず、抽象的なものになってしまいがちでした。しかし、今日話を聞かせていただいて、時系列で書いてしまっている指導案ばかりを書いてしまっていたなと思いました。小見出しに教師の思わくをしっかりと表すことができるように、Aに対して教師側のつけたい力やなかまづくりの取組の信念を今一度しっかりと自分の中で持つておくことが大切だと感じました。家庭訪問へ行く際に、きっかけとして子どもが綴ったものを持っていくという方法もあると教えてくれた先生がいたので、きっかけをつかむのにいかしたいなと改めて思いました。(小:「2~3年次研修として」参加)
- 今回の公開授業をするまで、人権学習の指導案を一から書くことがなかったので、書いてみて生徒の実態、自分の課題に気づくことができました。そして、書き方についてのご指導をいただいたので次年度以降意識していきたい。「なかまづくり」という点に関して、自分自身と生徒との関係は良くなってきたが、「生徒どうしをつなげる」取組は不十分と感じるし、どう具体的にしていけばかわからないままです。保護者との関係については、保護者が部落問題や人権学習にネガティブな思いを持つ人もいる中で、自分が生徒のために人権学習を通してこんな力をつけさせたいという自分の考えを伝えることができなかつたので、自分がどんな力をつけさせたいかはっきりさせたい。(中:「2~3年次研修として」参加)

アンケートから、3回連続講座・公開授業を通して研修を重ねることによって、継続的かつ深い学びになっていることがよくわかりました。また、日々の実践と重ねながら自身の取組を問い直していることも伝わってきました。「子どものくらし、実態にどんどん目を向けていきたい」、「家庭訪問を何度も行きたい」という決意を頼もしく感じました。

自身の振り返りでは、「誰に焦点を当てるのか、何を課題とするのかなど、題材を決めていくことに難しさを感じた」、「一人ひとりが綴ったものを共有するなど行っているが、なかなか時間が取れない中で何ができるか」、「生徒同士をつなげる取組をどう具体的にしていけるべきか」などから、日々悩みながら取り組まれていることがよくわかりました。

また、「昨年度、伊賀に来て何もわからず続けてきた人権に関わることが少しだけ見えてきた」、「他市から来て2年目で人権について全然わからないまま受講した…とても勉強になった」と書かれた方もみえました。

上記のことから、経験年数の少ない方や初めて伊賀に来られた方が、日々悩んだり不安に感じたりしながら取組を進めていることが伺えます。本講座で乗原さんから学んだことを基盤におきながら今後の実践につなげていけることだと思いますが、支えていくのは各学校・管理職であり、先輩の教職員であると改めて感じました。

本年度、受講された方は、22名（小学校16名・中学校6名。「2～3年次研修として：9名」「校内での推進担当者として：1名」「自己研修として：11名」「その他：1名」）でした。それぞれが学んだことを各学校で共有され、今後の取組において具体的にいかされることを期待しています。同和教育が大事にしてきた「くらしを知る、そしてつなげる取組・具体的実践」につなげていきましょう。

のべ5回にわたり、ていねいな準備をしていただき、温かく見守りながら熱くご指導いただきました乗原さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。引き続きよろしくをお願いします。



第1回(5/20)



第2回(8/2)

各学校・園のPTA 広報紙に子どもたちの笑顔満載♪



毎年、伊賀市PTA 連合会広報紙コンクールが実施されています。先日、応募のあった学校・園の広報紙を拝見しました。どの広報紙も工夫がなされ、活動する子どもたちの生き生きとした表情が掲載されていました。コロナ禍で学校行事や学年活動の内容を見直しながらも、子どもたちが大きく成長し、つながりを深める取組の様子がよく伝わってきました。

雑感：先にも記載しましたが、今年度、人権・同和教育連続講座は7回目を終えました。この間、2～3年目の若い世代の教員を中心に140名を超える方が受講されたこととなります。第2回では各自が実践をレポートにまとめ交流します。受講者の取組だけでなく、学校としての取組や管理職・推進教員等の指導・支援が問われるレポートでもあると思っています。厳しくもあり温かくもある研修講座によって学びを深めた方々が各学校での推進リーダーになっていくことでしょう。一方、受講後間もないうちに伊賀市から転出していく場合も少なくありません。少し残念な気持ちもありますが、いずれにしても、それぞれの勤務校で学んだことをいかされることを楽しみにしています。